

**製品名: リン酸化 RPA2 (T21) (8Y1) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe05996**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:5000-1:50000
分子量	29kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RPA2
別名	REPA2; RF-A; RP-A; RPA2; RPA32; replication factor-A protein 2; replication protein A 32 kDa subunit; replication protein A2;
遺伝子 ID	6118.0
SwissProt ID	P15927
免疫原	ヒト RPA32/RPA2 の Thr21 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

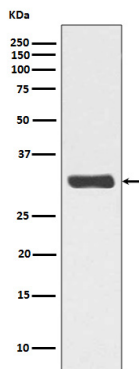
## 背景

ヘテロ三量体複製タンパク質 A 複合体 (RPA/RP-A) の一部として、DNA 複製中または DNA ストレス時に形成される一本鎖 DNA 中間体に結合して安定化します。中間体の再アニーリングを防ぎ、同時に DNA 代謝に関与するさまざまなタンパク質と複合体をリクルートして活性化します。そのため、DNA 複製と DNA 損傷に対する細胞応答の両方で重要な役割を果たします。DNA 損傷に対する細胞応答において、RPA 複合体は DNA 修復と DNA 損傷チェックポイントの活性化を制御します。ヘテロ三量体複製タンパク質 A 複合体 (RPA/RP-A) の一部として、DNA 複製中または DNA ストレス時に形成される一本鎖 DNA 中間体に結合して安定化します。中間体の再アニーリングを防ぎ、同時に DNA 代謝に関与するさまざまなタンパク質と複合体をリクルートして活性化します。そのため、DNA 複製と DNA 損傷に対する細胞応答の両方で重要な役割を果たします。DNA 損傷に対する細胞応答において、RPA 複合体は DNA 修復と DNA 損傷チェックポイントの活性化を制御します。ATRIP をリクルートすることにより、DNA 損傷応答のマスターレギュレーターである ATR キナーゼを活性化します。DNA 損傷に反応して、DNA 二本鎖切断修復因子 RAD51 および RAD52 をクロマチンヘリクルートするために必要です。また、ヌクレオチド除去修復に関与する XPA や XPG などの DNA 損傷タンパク質の部位にもリクルートし、この DNA 修復メカニズムに必要です。また、UNG との相互作用を介して塩基除去修復 (BER) にも関与しています。さらに、複製フォークの再開に関与する SMARCAL1/HARP を DNA 損傷部位にリクルートします。テロメア維持にも関与している可能性があります。

## 研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

## 画像データ



カリキュリン A 処理した HeLa 細胞溶解物における Phospho-RPA2 (T21) 発現のウェスタンブロット分析。